



大本山永平寺

立春

積もつた雪が一層静寂を感じさせる深山幽谷の永平寺。吐く息は白く、その冷たさを観て萎縮するか否かは修行の志の高低に関わるところです。「高くとも射つべく、深くとも釣りぬべし」の気概が大切です。

今月は涅槃会が行われます。

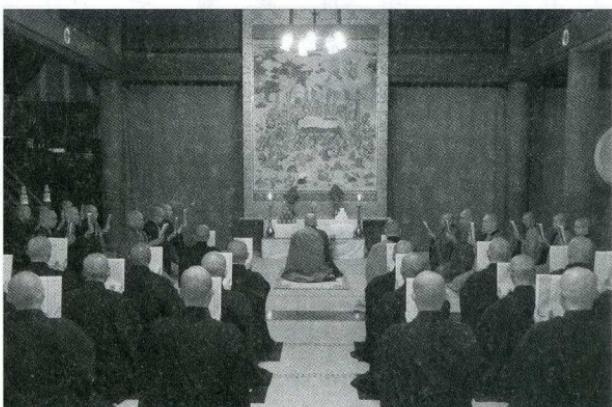
私共の師匠のそのまた師匠と辿つていくと源はお釈迦さまになります。この動かし難い事実を誇りに思う時、ご遺徳に心から感謝するのみならず、精進にさ

らに一步を進めることができるのです。

『ひとたびは涅槃の雲にいりぬとも 月はまどかに世を照らすなり世を照らすなり』という御詠歌があります。

お釈迦さまは月となつて世を照らしておいでになると詠まれたのですね。とても味わい深い文言です。

お釈迦さまはご入滅され、生身のお姿を拝することは叶いませんが、お経の中、み教えの中に今でも生きておいでになると思えてこそ仏弟子、仏教徒だと思います。





大本山總持寺

二月三日、節分会追儺式(ついな)が行われます。例年、百人を超える年男・年女が袴姿になつて、香積台の大黒尊天前から出発します。行列は手鑿(かみしも)を持った大衆が引き、本山役寮、そして招待した人気力士や有名俳優たちが続きます。回廊をねり歩きながら、二千人を超える参拝者の歓声の中、千畳敷の大祖堂に入堂します。

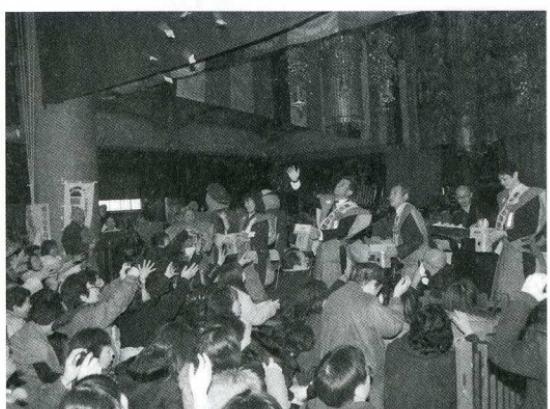
禪師さまが入堂なされると、節分会の御祈祷が行われ、参加した人々の無病息災、諸縁吉祥をお祈りします。内陣には、祈

祷札と豆の入つた数多くの升が並べられ、早いリズムの祈祷太鼓に合わせて般若心経が読経される中、升が次々繰り出され、

禪師さまや役寮、年男・年女、さらには有名人たちに手渡されます。そして、禪師さまの「ふくはーうち」というかけ声を合図に、一斉に豆がまかれます。

千畳敷の大祖堂は、ふく豆を獲得しようとする人たちの、歓声で、たちまち熱気に包まれます。豆まきが終了した後の有名人たちによる福引き抽選会も節分会の楽しみをさらに盛り上げます。

二月十五日は、积尊涅槃会(じやくそんねはんえ)が仏殿で行われ、厳かな雰囲気で包まれます。



雷洞作宣

選・村松五灰子

百才の語り尽きせぬ日向ぼこ

三重県 山下 利夫

停め置きし車の霜や夜勤果つ

秋田県 松山 薩州

錠かけてよりの夜長と思ひけり

東京都 長谷川 瞳

朝顔が実に観察の終わりけり

山口県 糸山 栄子

三尊に紅葉且つ散る苔の上

愛知県 松井 晓美

一人つ子の爺を侍らせ補虫網

秋田県 鈴木ゑい子

秋耕の土の塊手で解す

愛知県 平松 京師

日だまりを占め短日を長話

富山県 水野 昇平

早寝して寝返りばかり長き夜よ

東京都 斎藤ハルエ

竹の春古錢見つけしかくれんぼ

秋田県 鈴木 ゆう

評 過疎化が進み子供たちもいなくなってしまった校庭の鉄棒。逆上がりや懸垂の賑やかな声が聞こえていたが今はもうそれも聞こえない。鉄棒も干大根で役に立つてゐるのだが淋しかろう。大根を掛ける村人も淋しいのだ。余情深い。

廢校の鉄棒借りる干大根

宮城県 木村とみ子

貰乳の父のぐひ飲み年酒酌む

秋田県 小田鳶恭葉

*選者吟

期待とは梅の蕾の様なもの

五灰子

評 父の愛したぐい飲み。釉薬の微かな、ひび模様に長年使いた込んだ渋い味わいが滲む。今年もそのぐい飲みで年酒を頂く。父がしていたように。酒の味が深い。

軽いストレッチで肩を解したり深呼吸もよいでしょう。リラックスした、しなやかな心から俳句は生まれます。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

一枚のねんねこに五人育てたる母の命日ふく
じゅそう咲く

秋田県 小田鳶恭葉

評 仮名表記の「ふくじゅそう」の視覚的な効果と語感が相
俟つて一首の世界をあたたかく包んでいる。「ねんねこ」は、
母の背と子の胸を密着させ、充ちたりた母子の間柄の象徴で
もある。福寿草忌と呼ばせていただきたい。

母は父祖母は祖父との恋語る 姿変われど残
る歌舞伎座

東京都 木山 珠里

評 恋心といふものは何時の世も普遍である。母と祖母を通
して、若い作者が受け止めている精神の健やかさを思う。伝
統と現代との調和を目指す歌舞伎座と対比させ興味深い。

八十二歳生きて在所の夢を見る背戸に柿の木桐の木四本

鳥取県 峰地 三義

希望とは地上の道のようなもの魯迅語りし日ははるかなり

東京都 鈴木 正作

紙渡きの舟に波打つ水の音重ねる和紙に幸運なる

新潟県 星野 三興

*作歌小見

*選者詠

曉暗のしじまに一声あげるとき鴉はうすき悲哀
まといぬ

ちづ

今日は殊に秀歌が多くて選歌に迷いました。晚秋は歌心を
誘うのかも知れません。白寿の前田操さんが「囁くやうに呟
くやうに」とお聞きになつた風の言葉はどのようなものだつ
たかと心惹かれてなりません。

秋色の音もて晩鐘湖渡る一人二人と釣人去れり

静岡県 飯田 裕子

鍬持てば寒くはないと言う姫玉ネギ五〇〇ひとりで植えたり
けいとうの赤き鶏冠に雨蛙喉ふるわせてうごくともなし

山形県 多田 さよ
宮城県 畠山 恵

綿菓子のやうに軽くて甘き嘘分つてゐても耳は聴きたい

山形県 多田 さよ
宮城県 畠山 恵

葦叢は風にそよぎて私語しをり囁くやうに

東京都 長谷川 瞳

故郷の納屋に残れる舊砧母の打ちたる如く握りぬ

愛知県 前田 操

見てますか今夜の月はきれいだね恋人のごと孫よりメール

福岡県 小林 栄行

秋の陽にサッカーをする少年の髪に黄金のリングあらはる

福岡県 三吉 誠

秋の陽にサッカーをする少年の髪に黄金のリングあらはる

東京都 津久井すみ子